

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通)

事業所番号	2793700069		
法人名	スターツケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームきらら千里丘		
所在地	大阪府摂津市千里丘6-6-35		
自己評価作成日	平成30年11月22日	評価結果市町村受理日	平成31年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成30年12月6日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所のスローガンである『四季や曜日感を感じ、生きるために生きるホームを作る。』を節を衣食住において感じて頂けるように取り組んでおります。またご利用者様からの提案や行きたい場所があればできる限りお答えし取り入れさせていただいております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業母体のスターツケアサービス(株)は関東地方を中心に、老人ホーム・高齢者向け住宅・能施設・グループホーム等高齢者総合介護事業サービスを全国展開している。当事業所月に開設し、法人理念の「人の心を大切に、ふれ合い通じて笑顔・安らぎ・喜びを提供し“介護者として自覚と誇りを持ちながら、地域社会の一員としてのふれ合いを大切に”の内針を具現化する為、管理者・職員が一体となって真摯に取り組んでいる。ホーム周辺は、スーパーが点在し万博公園は車で僅かの距離に位置している。四季折々の花見に出かけ農地でイモ掘りを楽しんで、自然豊かな潤いある生活を支援している。近隣の公民館・幼稚園やさらなる自治会との話し合いを深め、地域に根ざした福祉施設の確立を目指している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念やホームのスローガンを周知し同じ方向に向かっていく様努力しております。	「人の心を大切に笑顔・安らぎ・喜びを提供します」の趣旨の法人理念と、「その人らしさを大切に福祉に携わる者の自覚と誇りを持ち地域の一員として生活を送る」の内容の運営理念を各ユニットに掲示し、意識の徹底を図っている。ホーム独自の理念は無い。	サービスのあり方や抛り所を示す、ホーム独自の理念を全体で考え作成し、全体で共有しながら、実践に繋げることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日に散歩や買い物をなどの際地域の方々と挨拶などを交わしながら交流をはかっております。	地域行事(社社のまつり・公民館まつり)の参加や、散歩・買い物時に近隣の方と挨拶を交わしている。ホーム見学希望者の多数の来所があり、また介護についての相談を受けるなど、地域の福祉施設として認識されてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加させて頂いたり、お招きして頂いたりしております。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で利用者やご家族の方等から頂いたご意見を活かしサービスの向上に努めております。	市職員・家族・管理者・職員のメンバーで、開設以来(3月31日)3回開催している。運営・現状・事故・行事報告を行い、取り組み内容を説明している。地域の方の参加が無く、意見・要望を聴けていない。	地域密着型サービスの役割を果たす為、地域代表(自治会代表・民生委員)や公正中立な認知症知見者の参加要請を行い、充実したメンバーでの会議開催をして、意見交換が活発となるよう期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所との常に連携が取れる様に対応させて頂いていただいております。	市の高齢福祉課に訪問や電話で、状況・取り組み内容を報告し、情報や指導を受けている。市職員の運営推進会議出席や市主催の研修(2ヶ月に1回)に管理者・職員が参加し、双方向的な協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3カ月に1回必ず身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束・虐待の防止・権利擁護についても話し合い、防止に努める。	研修や身体拘束廃止委員会を通して、内容と弊害を理解している。言動による拘束の意識の徹底を行い、不適切な場合は管理者が注意をしている。各ユニット間は施錠しているが玄関は開錠している。要望や気配で散歩や玄関のベンチに出て気分転換を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	おおむね3カ月に1回必ず身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束・虐待の防止・権利擁護についても話し合い、防止に努める。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	おおむね3カ月に1回必ず身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束・虐待の防止・権利擁護についても話し合い、防止に努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約までに契約までの流れに沿って細かく説明させていただきご納得されたうえで契約をさせていただく。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を玄関先に設置したり介護相談員の方をお迎えし、ご意見を頂いた際には早急に検討し反映させていただける体制を設けている。	利用者の殆どが意見・要望を表せ、日々の生活で聞くと共に、家族訪問時(訪問者が多い)に意見を聞いている。車椅子購入の際、身体状況のアドバイスを、求められ一緒に選択したり、親族の行事発表の見学希望に外出支援を行ない、要望に応えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回全体会議を実施。その他常に悩みや困りごとを聞きやすい雰囲気づくりをしております。	フロア会議・全体会議(各月1回)で意見を聞く機会がある。又日々のケアで気付きやアイデアをもらいリーダー・管理者が対応している。レクリエーションの内容検討や館内の飾りつけのアレンジ・周辺の地図を点検し安全策を取り入れる等、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給及び賞与に関しては考課表をもちいてフィードバックするようにしております。やりがいに関しては+One推進運動にて個々に目標をもって取り組んでおります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として毎月研修を実施、個々には都度、個人の力量に合わせたケアの助言を行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政で開催される研修に参加させていただき交流する機会を設けていただいております。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションの時間を多くとり、アセスメントや本人の気持ちを理解すべく日々関係づくりに努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	体調の変化や様子は随時電話にて報告させていただき、その他の事項は訪問時に報告させていただいております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ヒアリングの時間を設けさせていただき細かな変化にも早急に対応させていただけるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様から教わることも多々ありますので常に接遇等も大事にしながらご利用者と同じ目線で対応させていただいております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員からご家族様にホームでの生活や体調などをご報告させていただいております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様はもとより親戚の方やご友人など特段制限を求めず時間も縛りなく気軽に訪問していただける環境づくりをさせていただいております。	利用者の殆どが近隣の方で、以前の住居の友人・知人の訪問や教師時代の教え子・親族の訪問がある。馴染みの美容院・墓参りは家族が同行して、馴染みの関係の継続と生活習慣を大事にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆様に極カリビングで過ごしていただきスタッフが間に入り利用者様が孤立しないような環境づくりに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係終了後もお互いに電話連絡をし地域の方として協力をしていただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行きたい場所や食べたい物の希望をお聞きし実現できることは	入居時のアセスメントで丁寧に思いや意向を聞くと共に、家族から今迄の生活歴の情報をもらっている。日々の生活で話しかけと声掛けを行い、真意を掴み取るよう把握に努めている。利用者間同士の会話で意向や希望をキャッチ出来る時がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やなじみの環境を重視し外出の機会を設けたり、好きなものをお聞きし献立に盛り込んでおります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床時間や、就寝時間などは特に制限は特に制限を設けず自由な時間に寝起きしていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や日々の面会時等に頂いたご意見を反映させていただいています。	毎月のカンファレンスと業務日誌・申し送りノート・ふれあいノート(医療・健康状況記入)を参考にモニタリング・担当者会議(家族・利用者も参加)を実施して、3ヶ月毎計画を作成している。新計画は本人・家族に説明し署名捺印をもらい、職員には周知徹底を行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録をどなた見てもわかりやすく見れるように努力させていただいています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の趣向に合わせて買い物の援助をさせて頂いたり外食や遠足に出かけたりしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーで買い物や飲食を実施。散歩は地下あの公園を利用しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科は毎月2回往診。急な体調変化はホームからの連絡を24時間オンコール対応していただいています。	全員が協力医院の内科(月2回)の往診を受けている。かかりつけ医変更の際は納得と同意を得ている。歯科(週1回)の往診は希望者が受け、専門医(眼科・整形)は家族が同行している。訪問看護師(週1回)による健康チェックで身体状況を把握している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回の訪問にて対応。体調変化についてはホームからの連絡を24時間オンコール対応していただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中や日々の訪問にて病院の連携室の方とコミュニケーションを図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時の指針を示しており、重度化した際は早めの段階で本人やご家族様と話し合い十分な説明をし医療機関関係者とチームで支援できるように取り組みます。	入居時に重度化・終末期対応指針文書で、説明し同意書を交わしている。主治医・訪問看護師が身体状況を把握し、状況変化時は医療関係者・家族と話し合い、連携を取りながら、方針の確認を行なっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や事故発生マニュアルに従い訓練しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の研修を実施・予定しています。	消防署指導の火災訓練を1回実施し、来年2月に2回目の訓練実施の予定をしている。自動火災通報装置・緊急連絡網・備蓄品(水・缶詰・簡易トイレ・ヘルメット等)を整備している。自然災害も考慮した避難誘導・経路・方法の習熟と近隣住民の協力連携を検討中である。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりのプライバシーを尊重する配慮や言葉かけ、対応を実施させていただいています。	人格を尊重し自己決定し易い環境づくりを意識しながら取り組んでいる。名前は苗字に“さん”をつけて、丁寧な言葉掛けに留意している。居室の出入りには声をかけ、トイレ・浴室のドア開閉には羞恥心に対する配慮や、プライバシー確保を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にご希望をお聞きし自己決定できるように努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分に合わせて、食事・入浴・散歩等の時間をご利用者様にあわせていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水や、寝ぐせ直し等個人に合わせて身だしなみを支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じる食事のメニューを取り入れ、買い物・準備・片付けなどを一緒にさせていただきます。	各ユニット毎に献立を作成し、調理・盛り付け・後片付けを職員と一緒にを行い、同じテーブルを囲み会話をしながら食事を楽しんでいる。ホーム菜園の野菜が食卓にあがる時もある。誕生日のケーキづくり・たこ焼き・流しソーメン等イベントや季節に合わせた食事を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1500カロリーを目安に食事を提供しています。水分も1500ccを目安にしコーヒー・紅茶・ココア・緑茶など豊富に取り揃え選んでいただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士が週に1回訪問して個別にケアを指導しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレを利用していただいています。	日中は布パンツ(8名)リハパン(10名)で、夫々の排泄パターンを把握して声掛けを行い、トイレでの排泄支援を行なっている。夜間はオムツ(1名)ポータブル使用(1名)となるが、定時巡回時の誘導や交換を行い、個々に応じた排泄支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、摂津市の体操を行い水分をしっかり引用していただいております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理強いをせずにお声掛けをし入浴していただき気分転換をしていただいています。	週2回以上の午後の入浴が基本となっているが、入浴拒否の人や個々のタイミングに合わせた柔軟な対応で入浴支援を行なっている。ゆったりした気分の入浴中は会話が弾み、本音を掴んだり、身体チェックの好機会となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や湿度に配慮し眠たくなられた時に寝ていただける様に対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前にはスタッフたりでお名前を何月何日〇〇様〇錠〇包いきますとダブルチェックし、ご本人様と一緒にもう一度確認したのち服用していただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1日1回は必ず外気に触れるか洗濯もの干しや買い物・散歩・レクリエーションなどを実施していますが、ご本人様に合わせて無理強いをしない様に心がけております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じていただけるような外出も心がけています。(バラ園・紅葉狩りなど)	日常の外出は近隣の公園や買い物に出かけたり、玄関前のベンチや菜園があるベランダで過ごし、外気浴を兼ねて季節感を味わっている。季節の花見(桜・バラ・紅葉)は車で出かけ、近くの農園で芋ほりを楽しむ等、積極的に戸外に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	地域のスーパーやコンビニなどでの買い物。個人のお小遣いをもって頂き買い物をしていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や文通などは特に制限なく自由にしていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間は安全に利用できるように配慮しています。ソファは皆さんご自由に使用していただいています。	居間兼食堂はオープン型の厨房と一体となっていて、開放感があり採光も良い。館内は木調の仕様で、季節の手づくり作品や行事・日常写真が飾られ、和やかで温かい雰囲気となっている。少人数で語れる部屋や廊下にソファが配置され、個別で過ごす空間を設けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや長椅子などを配置し思い思いに過ごしていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族様の「ご既往をお聞きしてなじみの家具等の配置をしていただいています。	馴染みのタンス・小物・ベッドを持ち込み、居室入り口に職員手作りの表札を掲げて、自室の趣きとなるよう工夫している。クローゼット・エアコン・照明器具が設置され、掃き出し窓からはベランダに出られ、安全で快適な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台やトイレは自由に使用していただけるよう清潔保持に努めております。		